

# 群馬の中学生 英語 4 技能スキルアップ事業 第2回学校訪問資料

館林市立第三中学校

## 現在までの取組について

### 1. 英語部会の校時表での設定

今年度より、校時表に英語部会を設定し、定期的に情報交換および協議する機会を設けてきた。以下がその日程と主な協議内容である。

4月27日	<ul style="list-style-type: none"><li>指導の課題についての情報交換</li><li>相互授業参観期間の設定</li></ul>
5月25日	<ul style="list-style-type: none"><li>相互授業参観を通じた生徒の実態、指導の実態の分析</li><li>半田指導主事による助言</li></ul>
6月1日	<ul style="list-style-type: none"><li>視察研修の報告</li><li>英語4技能スキルアップ事業第1回訪問に向けて</li></ul>
6月4日	<ul style="list-style-type: none"><li>英語4技能スキルアップ事業第1回訪問</li><li>3年2組 庄子教諭による授業公開</li></ul>
6月8日	<ul style="list-style-type: none"><li>英語4技能スキルアップ事業第1回訪問を終えて</li><li>1学期中に取り組む実践についての日程確認</li><li>CAN-DO リストの見直し</li></ul>
6月15日	<ul style="list-style-type: none"><li>先進校実践、先行研究について</li><li>1学期中に取り組む実践についての検討</li></ul>
6月22日	<ul style="list-style-type: none"><li>単元構想の検討</li><li>半田指導主事への訪問要請日程の確認</li></ul>
6月29日	<ul style="list-style-type: none"><li>半田指導主事による単元構想についての助言</li></ul>
7月13日	<ul style="list-style-type: none"><li>全職員による英語授業の参観からの振り返り</li><li>1学期の実践についての課題の共有</li></ul>
8月2日	<ul style="list-style-type: none"><li>公開授業の単元構想について</li></ul>
8月21日	<ul style="list-style-type: none"><li>山本指導主事、半田指導主事による助言</li><li>公開授業の指導案検討</li><li>CAN-DO リストの見直し</li></ul>
9月7日	<ul style="list-style-type: none"><li>GTEC 実施に向けての確認</li><li>英語4技能スキルアップ事業第2回訪問に向けて</li><li>2学期の授業実践の進捗状況</li></ul>
9月11日	<ul style="list-style-type: none"><li>GTEC 実施に向けての確認</li></ul>

## 2. 英語部会での取組

### (1) 生徒および指導の実態把握

#### ア. 生徒の実態

英語部会での協議、英語部員ならびに研修部員による授業参観を通して、生徒の実態把握に取り組んだ。以下が主な生徒の実態である。

(第1学年)

- ・記述に課題を抱く生徒が多い
- ・複数の小学校からの進学に伴い、既習事項の定着に差が見られる
- ・コミュニケーションをとろうとする意欲に個人差が見られる

(第2学年)

- ・コミュニケーション活動の参加意欲に個人差が見られる
- ・やり取りの際にワークシートを見ながら取り組んでしまう生徒が見られる
- ・文法事項の定着に差が見られる

(第3学年)

- ・既習事項の定着に差が見られる
- ・やり取りの際にワークシートを見ながら取り組んでしまう生徒が見られる
- ・進んでコミュニケーションをとろうとする意欲は高い

#### イ. 指導の実態

生徒の実態把握とあわせて、教師の指導の実態把握に取り組んだ。以下が課題として主に挙げられた内容である。

- ・小学校の英語活動の延長となってしまう
- ・単元構想のねらいが明確になっていない
- ・生徒が英語で活動する必然性のある言語活動が設定できていない
- ・技能の統合を意図的に取り入れた学習活動が組み立てられていない
- ・3年間の系統性のある指導についての共通理解を英語部として持つことができていない

上記のような指導の課題から、特に、指導改善の視点として、「3年間の系統性のある指導」「生徒が英語で活動する必然性のある言語活動が設定」の2点を今年度の重点課題として設定した。

### (2) 3年間の系統性のある指導に向けて

#### ア. CAN-DO リストについて

これまでの CAN-DO リストは、生徒の実態を十分に踏まえた内容とは言えず、また、日常的な指導に活用されることも少なかった。そこで、3年間の系統性のある指導の展開ならびに日常的な指導への活用を目的として、既存の CAN-DO リストの見直しを図った(別紙資料参照)。その際に、生徒の実態を踏まえると同時に、新学習指導要領を意識し、4技能の関連を図った指導という視点で改善に取り組んだ。

また、作成した CAN-DO リストについては、各学年で教科書 Unit のどの部分が、CAN-DO リストのどの部分の指導に当たるかについて朱書きしながら活用している。それにより、系統性のある指導の展開と同時に、指導の偏りをなくすことを意識している。年度末に、さらに見直しを図り、来年度の指導に生かしていく予定である。

#### イ. Response指導について

英語でのやり取りの場面において、ワークシートを見ながら取り組んでしまったり、一方的な発話による不自然な会話となってしまうりする生徒の様子が課題として見られた。そこで、会話を継続させる方法、また、円滑なコミュニケーションの方法として、Response 指導の見直しを図っている。

これまでも Response 指導は行ってきたが、それらには教師の経験の差や指導観の差が表れていた。そこで、3年間の系統性のある指導を展開していくために、全学年共通の Response Chart(別紙資料参照)を作成し、指導の充実を目指している。

### (3) 生徒が英語で活動する必然性のある言語活動の設定

#### ア. 新学習指導要領の理解

指導の実態から、生徒が英語で活動する必然性を持たせるような言語活動を設定することができていないという課題が見られた。文法事項の指導や書く活動、読む活動に重きがおかれ、生徒に必要感を持たせるような言語活動が設定されている単元構成となっていなかった。また、4技能についても、個別の指導となり、関連性を持たせることができていなかった。

そこで、生徒が英語で活動する必然性のある言語活動を設定し、さらには各技能の統合を図っていくために、英語部会にて、新学習指導要領の読み込みに取り組んでいる。互いの授業実践の検討や単元構想の検討の際にも、設定する学習活動が新学習指導要領上ではどのような位置付けになっているのか、また、他の技能での指導はどのように行われるべきなのかを関連付けながら検討を行っている。

#### イ. Grow up sheetについて

指導の実態から、単元構想のねらいが不明確であったり、各技能を統合した指導が展開できていないという課題が見られた。

そこで、単元構想を明確にし、生徒に学ぶことの必要感を持たせた学習活動を展開していくために、英語部内で共通した単元学習計画表の形式を作成した（別紙参照）。また、各学年において単元構想を練る際には、単元導入時にゴールとなる言語活動に取り組みせ、習得すべき文法事項に必要感や必然性を持たせることや中心となる言語活動とねらいとの整合性の検討に取り組むことを留意点として、英語部内で共通理解を図って取り組んでいる。

### 3. 校内研修との連携

#### (1) 単元構想について

本指定を受け、英語部会での取組を学校全体に普及させ、研修の充実、授業改善の充実を目指している。特に、英語部での単元学習計画表 Grow up sheet 同様、全教科において単元構想を明確にしながらか授業を行っていくことに取り組んでいる。また、その際に、英語部での単元導入時にゴールとなる活動を示すという取組は、現在、国語科等の他教科においても同様の実践がされており、教科の枠を越えた授業改善が図られている。

また、各教科で作成した単元学習計画表については、校内共有ネットワーク上に保管し、全職員がいつでも参考にすることができるようにしている。

#### (2) 全職員による英語授業参観

本校は、研修主題を「学びを生かし、考え、表現できる生徒の育成」、副主題を「思考力を高める対話的な学びを通して」とし、校内研修に取り組んでいる。英語科において取り組んでいる即興的に自分の考えを伝え合う活動の充実は、本年度の校内研修と関連しており、全教科で取り組むことで、その効果が高まると考えられる。

そこで、本事業の指定を受け、部会内で共通理解を図りながら生徒の伝え合う活動の充実という視点で授業改善を図っている英語科の授業を他教科の教員が参観し、自分自身の授業改善に生かしていく機会を校内研修として設定している。また、その際には、授業者、参観者の双方の学びとなるように、他教科から見た英語の授業における言語活動やコミュニケーション活動の課題点についても記述し、英語部会での実践検討に生かしている。参観者からのコメントの具体は以下の通りである。

##### (成果)

- ・単元のゴールが明確になっていたために、生徒が活動の目的をはっきりと持っていた
- ・ALTを複数名活用するというのは、生徒に英語で話す必要感を持たせられていた
- ・各時間の積み重ねが単元全体の成果として本時に表れていた
- ・自分の教科においても単元構想をより練っていききたい
- ・必然性のある学習活動の設定を自分も取り入れていきたい

##### (課題)

- ・ALTに伝えるという目的意識を生徒に十分に持たせることができていない活動になってしまっていた

- ・毎時間の積み重ねを生徒がまとめることができる工夫が必要である
- ・書くことに躓いている生徒が見られ、その指導も効率的でなかった

### (3) 英語科以外の職員による指導案検討

今年度より市教育委員会の校内研修の改善の一環として、教科の枠を越えた複数名の職員による指導案検討、授業研究に取り組んでいる。本校においても、本指定事業の公開授業に向けての指導案作成に英語科以外の職員が加わりながら取り組んでいる。他教科の職員が加わることで、予想される生徒の躓きを多面的に考えたり、新たな視点を得たりすることができている。

さらに、英語科で取り組もうとしている学習活動が他教科で取り組まれていることを知ったり、反対に、英語科での学習活動を他教科でも取り入れていったりする教科横断的な学習への広がりが見られている。

## 4. GTEC実施に向けて

GTECの実施に向けて以下のように計画を立て、取り組んでいる。

(事前指導 期間：～試験日前日まで)

- ・「情報探索」例題を活用した即時的に読む指導
- ・「自由作文」例題を活用した自分の考えを整理しながら書く指導
- ・Step Up Note を活用した家庭学習

(プレテストの実施 期間：9月25日～28日)

(試験当日 10月3日)

- ・午前4時間をつかい Speaking テスト
- ・空き教室を活用し、機材の移動を最小限にして実施
- ・試験監督は英語科2名
- ・試験実施順
  - 1校時：2年4組
  - 2校時：2年3組
  - 3校時：2年2組
  - 4校時：2年1組
- ・午後2時間をつかい GTEC core の実施
- ・試験監督は英語科2名、2学年職員2名、教室巡回英語科職員2名

(事後指導)

- ・Step Up Note を活用した家庭学習
- ・冬期休業の課題の工夫

## 5. 今後の取組と課題

- ・効果的な言語活動の設定のための情報交換の充実
- ・CAN-DO リストの活用と見直し
- ・教科書の扱い方の検討
- ・習得場面での言語活動の充実
- ・やり取りの活動（即興性・継続性）の充実を図る指導の改善